

## 最優秀賞

日本放送協会横浜放送局長賞

### 小さな一言

平塚市立土沢中学校

三年 井上南奏

私の祖母はいつも財布がパンパンだ。それは、祖母が特にお金持ちだからとか、カード類が沢山入っているから、などというわけではない。

私はある日、祖母と一緒にスーパーマーケットへ行った。その日は特に混んでいて、レジがすごく並んでいた。商品を選び終わってレジの行列に並び、やっと私達の順番がまわってきた。会計になると、祖母は財布から早くお金を出そうと、焦っていた様子だった。会計金額が細かくて、小銭を出す事に時間がかかってしまったのだろう。さらに、後ろに沢山のお客さんが並んでいた事も、プレッシャーになったのだろうか。祖母の手は少し震えているように見えた。そうするとレジの店員さんが、

「ゆっくりで大丈夫ですよ。」

と優しく言ってくれた。後ろで並んでいる人も、うんうんと頷いていた。祖母はその一言のおかげで、落ち着いて会計を終える事ができた。

私はこの一連の流れを見ていた時、祖母の財布が何故パンパンなのかを疑問に思っていた。そしてその帰り道、祖母に質問を試してみた。

「なんで財布がそんなにパンパンなの？」  
すると祖母は、

「会計で混んでいると、焦っちゃってお札を出しちゃうんだよ。だから、お釣りの小銭が溜まっちゃうんだ。」

と、答えた。そして続けて、

「だから、さつきみたいに店員さんに言ってもらえると、本当に助かるんだよね。」  
と、嬉しそうに言った。

実際に、高齢者の方は会計で焦ってしまう人が多いらしい。会計が遅いことによって舌打ちをされたり、周囲からの視線が気になったりと、状況が悪化する事もあるという。祖母はセルフレジを使おうとしても、慣れない操作で余計に時間がかかってしまうとも言っていた。

高齢者の方が日常生活の中で困っている事は沢山ある。例えば、電車に乗るために駅を利用する時だ。駅では急いでいる人が多く、歩くスピードが全体的に速い。しかし、高齢者の方の中には速く歩くことが困難な人もいる。それでも周りに合わせようと歩くと、少しの時

間でも疲れてしまう。切符売り場や改札を通る時も、スーパーマーケットのレジと同じような理由で焦ってしまう事があるだろう。他にも、エレベーターやエスカレーターが無い所などは、高齢者の方が不便に思う場所のひとつだ。階段の上り下りは、足腰の弱い人にとっては一苦労だろう。私の祖母も、

「階段を上るだけで疲れちゃうなあ。」  
と、愚痴をこぼしていた。

そんな高齢者の方のため、私にも何かできる事がないか考えてみた。手助けをしてあげる、など直接手伝う事も大事だろう。しかし、常に高齢者の方の手助けができるわけではない。そこで私は祖母の言葉を思い出し、一言だけでも声をかけてあげる事が大切なのではないかと思った。その一言によって、祖母のように少しでも安心してもらいたいからだ。

人間は誰もが老いる。高齢になり、日常生活に支障が出てくる事は避けようがない。私たち若者も、そのうち高齢者の立場になる。その時に、私たちも誰かに支えてもらえるよう、いま自分には何ができるのか考える必要がある。私の行動で誰かを助ける事ができれば、その人も誰かを助け、またその人も誰かを助け、きつと良い連鎖が起るだろう。きつとその行動は、巡り巡って私たちが高齢になった時に返ってくると思う。

自分にとつては小さな一言でも、相手にとつては大きな一言になる。それを心に、私は積極的に声を掛けていこうと思う。